

2025 年度 日本バイオイメーjing学会総会議事録および資料

日本バイオイメーjing学会 会長
加藤 晃一

日時: 2025 年 9 月 27 日(土) 17:00~17:30

場所: くまもと県民交流館パレア

総会定足数は、定款第 27 条に従って会員現在数の1/5以上(現在正会員約160 名定足数 32 名)。
出席連絡 27、委任 46。会場にははるかに多くの人数が出席しており定足数は充足している。

議題: 2024 年度事業報告、2025 年度事業経過報告および 2026 年度事業計画

総会議案

各委員会報告と審議

1.	庶務報告	曾我庶務担当理事	資料 1
2.	財務報告	太田財務担当理事	資料 2
3.	会計監査	岡 浩太郎、木原 裕	資料 2
4.	企画委員会	○鈴木 亮、竹本 邦子、長谷川 明洋	
5.	バイオイメーjing誌委員会	朽津 和幸、曾我 公平、○檜垣 匠、樋口 ゆり子、宮川 拓也	
6.	bioimages 誌編集委員会	朽津 和幸、小島 清嗣、○小島 正樹、斎野 朝幸、洲崎 悦子、宮川 拓也	
7.	ホームページ編集委員会	朽津 和幸、曾我 公平、○檜垣 匠、矢木 宏和、大友 康平	
8.	集会委員会	加藤 薫、○永井 健治	
9.	賞選考委員会	田中 直子、○朽津 和幸、梅澤 雅和、秋田 佳恵	
10.	研究助成選考委員会	○菊地 和也、矢木 宏和、宮川 拓也、梅澤 雅和	
11.	講習会委員会	岡部 弘基、○加藤 薫、櫻井 孝司、佐々木 章、大友 康平、 企業から(エビデント、カールツァイス、ニコン、浜松ホトニクス)	
12.	国際交流委員会	木原 裕、○鈴木 和男、大友 康平	資料3
13.	新技術情報委員会	加藤 薫、瀧本 真一、鶴旨 篤司、○根本 知己、晝馬 亨	
14.	男女共同参画委員会	朽津 和幸、○田中 直子、樋口 ゆり子、鈴木 亮、行方 衣由紀、秋田 佳恵	資料4
15.	その他		

以下の報告と審議が行われた。

1. 庶務報告

- (1) 2024 年度事業報告
 - 1) 会報などを各委員会と協力して発送
 - 2) 会員情報の管理・更新(「アクセライト」に委託)
 - 3) その他
- (2) 2025 年度事業経過報告
 - 1) 会報などを各委員会と協力して発送
 - 2) 会員情報の管理・更新(「アクセライト」に委託)
 - 3) その他
- (3) 2026 年度事業計画

- 1) 会報などを各委員会と協力して発送
- 2) 会員情報の管理・更新(「アクセライト」に委託)
- 3) その他[資料1]
 - ① 正会員会費改訂
【審議】資料1提案通り承認された。
 - ② 来年度人事
【審議】資料1提案通り承認された。
 1. 賞選考委員(田中副会長)
 2. 国際交流委員
 - ③ 名誉会員の附則
【審議】年齢要件は、「65歳以上を目安とする」と修正することで承認された。
 - ④ 生物科学学会連合への加入(加藤(晃)会長)
【審議】資料1提案通り承認された。
 - ⑤ 各委員会の連携のために委員会と大会長の年間業務マニュアルの整備を庶務担当理事を中心に行うことが報告された。

2. 財務報告、3. 会計監査[資料2]

- (1) 2024 年度決算書
- (2) 上記監査証明
- (3) 2026 年度予算案

3. 企画委員会

- (1) 24 年度事業報告
 - 1) スカラーシップアワードの設立(学生会員向け)
 - 2) 賛助会員への勧誘
- (2) 25 年度事業経過報告
 - 1) 賛助会員への勧誘
- (3) 26 年度事業計画
 - 1) 賛助会員への勧誘

5. バイオイメーシング誌委員会(檜垣委員長)

- (1) 24 年度事業報告
学会誌「バイオイメーシング」第 33 巻を発行
- (2) 25 年度事業経過報告
学会誌「バイオイメーシング」の完全オンライン化
第 34 巻 1 号(通巻 95 号)を発行(学会ウェブサイトにて公開)
第 34 巻 2 号(通巻 96 号)を 2025 年 9 月に刊行予定(学会ウェブサイト会員専用ページにて公開、学術集会終了から半年後に一般公開予定)
- (3) 26 年度事業計画
学会誌「バイオイメーシング」第 35 巻の発行
2012 年以前のバックナンバーの電子化および学会ウェブサイトでの公開

6. bioimages 誌編集委員会(小島委員長)

- (1) 24 年度事業報告
 - 1) Bioimages Vol. 32 の論文アップロード
 - 2) 情報検索プラットフォーム EBSCOhost への学会誌収録
 - 3) Vol. 2(1994)以前のバックナンバーのオンライン化
- (2) 25 年度事業経過報告
 - 1) Bioimages Vol. 33 の論文アップロード
 - 2) 全バックナンバーのオンライン化完了
- (3) 26 年度事業計画

- 1) Bioimages Vol. 34 の論文アップロード
- 2) 投稿規程の一部見直し

7. ホームページ編集委員会(檜垣委員長)

- (1) 24 年度事業報告
特になし
- (2) 25 年度事業経過報告
学会誌「バイオイメーjing」の完全オンライン化に伴い、学術集会要旨集を学術集会終了後から半年間、会員に限定して公開するため、会員専用ページを設置し、運用を開始。
- (3) 26 年度事業計画
2012 年度以前の学会誌「バイオイメーjing」のバックナンバーを掲載予定。

8. 集会委員会(永井委員長欠席につき曾我が代理報告)

- (1) 24 年度事業報告
第 33 回学術集会
日程:2024 年 9 月 29 日(日)・30 日(月)
会場:東京理科大学 葛飾キャンパス
大会長:曾我 公平(東京理科大学 先進工学部 機能デザイン工学科)
参加費:
一般
【事前申込】正会員 5,000 円(不課税)、非会員 8,000 円(税込)
【当日参加】正会員 8,000 円(不課税)、非会員 10,000 円(税込)
学生
【事前申込】会員 2,000 円(不課税)、非会員 4,000 円(税込)
【当日参加】会員 4,000 円(不課税)、非会員 6,000 円(税込)
※学部 4 年生以下の学生、非会員招待講演者、協賛企業参加者は無料
参加者数:一般 149 名、学生 42 名 合計 191 名

懇親会:一般・協賛企業参加者:4000 円(税込) 学生:2000 円(税込)
非会員招待講演者:無料
参加者数:一般 98 名、学生 28 名

公開講座「見える、見せる、バイオイメーjing」
日程:2024 年 9 月 28 日(日)13:30-17:00
参加者数:90 名

- (2) 25 年度事業経過報告
第 34 回学術集会
日程:2025 年 9 月 26 日(金)・27 日(土)
会場:くまもと県民交流館パレア
大会長:檜垣 匠(熊本大学大学院先端科学研究部)
参加費:一般(正会員・協賛学会員:8,000 円(不課税)、非会員:10,000 円(税込))
学生(学生会員:4,000 円(不課税)、非会員:6,000 円(税込))
※事前申込みと当日参加の費用が同額
参加申込者数(9 月 8 日時点):151 人
懇親会:一般:9000 円(税込)
学生:4000 円(税込)
参加申込者数(9 月 8 日時点):90 人
公開講座「視線がたつなく医療と科学『みる』から読み解く生命と技術」
日程:2025 年 9 月 28 日(日)9:30-11:30
参加申込者数(9 月 8 日時点):200 人
- (3) 26 年度事業計画
第 35 回学術集会・公開講座
日程:2026 年 10 月 3(土)~10 月 5 日(月)

会場：京都大学周辺(予定)
形式：対面式
大会長：樋口ゆり子(京都大学大学院薬学研究科)

9. 賞選考委員会(朽津委員長)

2025 年度より、田中直子前委員長に加えて、新任の朽津 和幸、梅澤 雅和、秋田 佳恵が担当を拝命。評議員会の議論の結果、2026 年度から増員が必要との結論になり、加藤 薫、根本 知己、樋口 ゆり子が担当予定。

(1) 24 年度事業報告

1) 奨励賞:以下の 3 名の方に授与

秋田 佳恵(日本大学生物資源科学部)
石井 宏和(生命創成探究センター 生理学研究所)
毛内 拓(お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系)(五十音順)

2) スカラシップアワード

2024 年度は暫定的に賞選考委員会が担当することになり、選考を実施。

(2)25 年度事業経過報告

1) 奨励賞:

堤 元佐(防衛医科大学校)

2) スカラシップアワード

2025 年度も暫定的に賞選考委員会が担当することになり、選考を実施。

(3) 26 年度事業計画

1) 奨励賞について、学会ホームページに推薦のお願いを掲載予定。

10. 研究助成選考委員会(菊地委員長)

(1) 24 年度事業報告

特になし

(2) 25 年度事業経過報告

特に無し

(3) 26 年度事業計画

特に無し

11. 講習会委員会(加藤薫委員長)

(1)24 年度事業報告

下記の国際デモをオンラインで行いました。

1) 『解像度 2nm の超解像顕微鏡(製品名 MinFlux(Abberior 社))の国際オンラインデモ』

日程:9 月 5 日、6 日 いずれも 16 時～

2) 9 月 5 日(木) 16 時～ 一般的な STED のデモ】初心者はこちらも参加を推奨

STED 顕微鏡技術(特にハイエンドモデル)について

※ Abberior 社が用意したサンプルでのオンラインデモを行いました。

解像度 30nm で、オンラインではありますが、目の前でサンプルが次々に撮影され可視化されました。単純な STED や tau-STED に留まらず、補償光学を用いた分厚い資料の撮影や、高速での動画撮影なども見せて頂きました。

2) 9 月 6 日(木) 16 時～ 【MinFlux のデモ】STED や超解像の経験者はこちらのみでも可

MinFlux 顕微鏡技術について Abberior 社が用意したサンプルでのオンラインデモを行いました。。

※ Abberior 社のサンプルを用いて、オンラインですが、リアルタイムで、脂質 2 重層中の脂質分子の拡散をリアルタイムで見せて頂きました。別の固定試料では、核膜孔の構成分子や、膜タンパク、脂質 2 重層の厚みまでも明瞭にとらえられたのは驚きでした。解像度 2nm での超解像イメージを体感しました。

(2) 25 年度事業経過報告

講習会担当の委員に大友康平先生に加わって頂きました。

(3) 26 年度事業計画

次年度、何らかの形で講習を計画します。

12. 国際交流委員会(鈴木和男委員長)

学術集会で報告が行われ、内容について承認された。

13. 新技術情報委員会

(1) 24 年度事業報告

特になし

(2) 25 年度事業経過報告

特になし

(3) 26 年度事業計画

特になし

14. 男女共同参画委員会(田中委員長)

資料の通りの内容が承認された。

(ウ)その他① 正会員会費改訂

【審議内容】

評議員と正会員の年会費を同一会費 8,000 円とする。

これに伴い定款の付則を改定する。

【背景】

●2025 年度前期評議会にて評議員と正会員を同一会費にする方針が認められた。

●学会の財務状況として、現状の会費収入では繰越金を取り崩してゆかなければ立ち行かない(図 1)。2022, 2023 年度の一時的な増大は学術集会残余金に依存している。

●物価及び人件費の高騰傾向は続いている(図 2)。

●連合学会への加入(予算申請などで重要)。

●現在、ホームページ担当に過大な負荷がかかっており、ホームページ機能の充実によるデジタル化を進め、会員の便宜を図りたい。

●**名誉会員の会費は免除する。**

。

●ここ数年の変化として

- 2023 年度より学会事務局業務の一部を外部委託し、年間 60 万円の支出が生じている。
- 2025 年度より「バイオイメージング誌」のデジタル化を実施した。この効果としては、学術集会経費において約 100 万円の経費低減につながった。一方で学会全体の予算としては前期発行分の約 25 万円の節約と、その効果は限定的である。

これらの変化を鑑みると、年間約 35 万円程度の赤字が見込まれる。

さらに現在ホームページ担当者に大きな負担がかかっており、デジタル化と人件費の増大を鑑み、ある程度の支出を見込む必要がある。

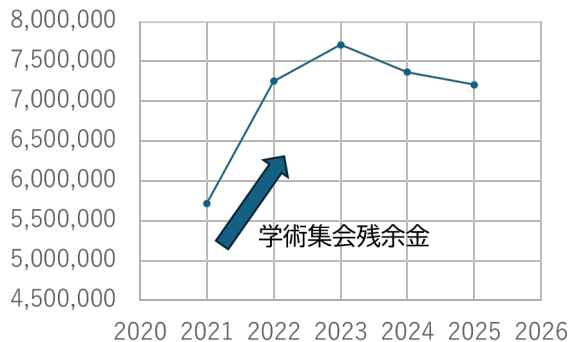


図 1 過去 5 年間の繰越額の推移

	人数	現在	案 1	案 2
評議員	30	8,000	5,000	8,000
正会員	153	5,000	5,000	8,000
学生会員	57	2,000	2,000	2,000
合計		1,119,000	1,029,000	1,578,000

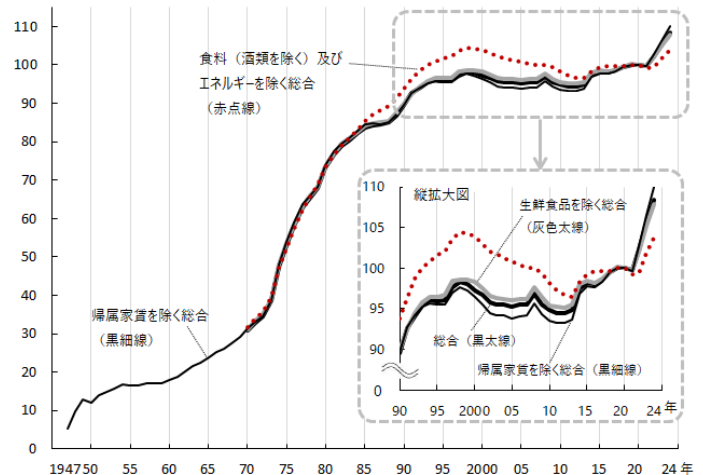


図 2 消費者物価指数 2020 年=100 1947 年～2024 年 年平均(総務省統計局「消費者物価指数」)

【試算】

2024 年度の支出(学術集会準備金を除いたもの): 1,562,599 円

現在は赤字のため、正会員費を 8000 円に値上げすれば毎年の収支は同じになる。

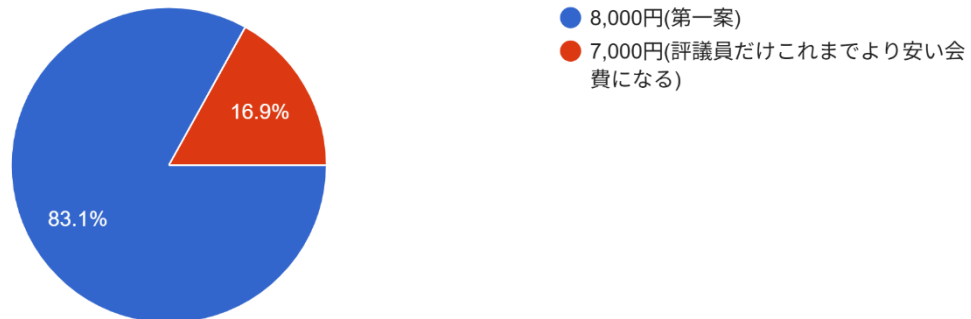
国際学会の経費の貯蓄はできないが、予備費が 960 万円あるので、9～10 回は国際学会を開くこともできる。

【会員アンケート結果】

会員アンケート 回答数59

適切な正会員会費

59 件の回答



【年会費改訂に伴う定款付則の改訂】

●定款に追記する付則の案

付則

- この定款の変更は、2026 年1月1日より施行する。

【会費改訂】

- 年会費として会員は次の会費年額を支払うこととする。

(1) 正会員(評議員を含む)	年額	8,000円
(2) 学生会員	年額	2,000円
(3) 団体会員	年額	10,000円
(4) 賛助会員	年額1口	100,000円

【退会、除名、復会、】

- 5 年以上の未納者は退会・除名者名簿に情報を移し、復会希望の場合、新規入会をお願いする。

また、3～4 年未納の会員に対しては、会費請求や会員への案内等を行わないが、除名にはせず情報を残し、長期未納者名簿に情報を移す。また、復会希望の場合、過去未納分の支払いを条件に、通常の会員名簿に情報を戻す。

- 退会の場合、学術集会以前の申請は前年度の未納会費請求するが、当該年度の請求は免除する。また、退会の場合、学術集会以降の申請は当該年度の未納会費まで請求する。

5. 名誉会員の会費は免除する。

【参考】現状の付則

付則

本細則は、2017年1月1日より実施する。

年会費

会員は次の会費年額を支払うこととする。

- 評議員 年額8,000円
- 正会員 年額5,000円
- 学生会員 年額2,000円
- 団体会員 年額10,000円
- 賛助会員 年額1口100,000円

6. 企業評議員は、個人正会員については会費年額5,000円、賛助会員を代表して評議員となる場合には賛助会費のみとする。

(ウ)その他② 来年度人事

委員の更新	
(1) 賞選考委員	田中副会長
(2) 国際交流委員	曾我副会長

(1) 賞選考委員 田中 直子、○朽津 和幸、梅澤 雅和、秋田 佳恵

田中直子副会長より、2026 年 1 月 1 日より、賞選考委員として下記3名を追加し、委員を 7 名とする提案があり春の評議会にて承認された。今回は総会承認。

加藤 薫、根本 知己、樋口 ゆり子

(2) 国際交流委員 理事会、評議会、総会で承認

木原 裕、○鈴木 和男、大友 康平の3名の当学会国際交流委員を増員し、
揚妻 正和、大友 康平、木原 裕、甲本 真也、○鈴木 和男、鈴木 亮
の6名体制にする。

(ウ)その他③ 名誉会員の附則

現在基準がない名誉会員の選定基準の明文化と会費免除の審議。

【附則原案】

- 年齢要件:65 歳以上を目安とする。
- 会長・理事・委員長など組織での経験
- 学術賞受賞歴(ノーベル賞、文化勲章など)
- その他上記に相当する学会への貢献がある方
- 名誉会員の会費は免除する。

生物科学学会連合への加入(加藤(晃)会長)

生物科学学会連合への加入を審議する。

<https://seikaren.org/>

生物化学学会連合運営規約

第 1 条 本連合は会員の活動に関する情報連絡の便宜を図り、必要に応じ連合として意見を公表し、生物科学の発展並びに普及に務めることを目的とする。

第 2 条 会員は生物科学に関連する学術学会で、この連合の目的に賛同する団体とする。

第 3 条 本連合は毎年 1 回以上の定例会議を開催する。また、代表が必要と認めたとき、あるいは会員の 1/3 以上の要求があったときに臨時会議を開催する。

第 4 条 本連合の会議には、各学会の学会長またはその意志決定を代行しうる立場の会員による代理人が出席するものとする。また、会員としての議決権を付与しないで以下の者の参加を求める。日本学術会議の基礎生物学・統合生物学・基礎医学の各分野別委員長、国際生物学オリンピック日本委員会委員長、本連合前代表および本連合が必要と認めた者。

第 5 条 本連合には、1 名の代表をおく。代表は会員の推薦による候補者の中から会員の互選により選出され、連合の運営にあたる。代表の任期は 2 年とし、重任は 1 回に限り認め、再任は妨げない。選出については細則

にて別途定める。

第 6 条 本連合には、1 ないし 2 名の副代表をおき、代表の職務を補佐する。副代表は代表が推薦し、会議で承認されるものとする。副代表の任期は 2 年とし、再任は 1 回に限り認める。

第 7 条 本連合には、本連合の迅速な意志決定を行うために、代表の諮問に応ずる運営 委員会を置く。運営委員会は代表・副代表を含め 6 名以内の運営委員により構成し、運営委員は代表が推薦し、会議で承認されるものとする。運営委員の任期は 2 年とする。ただし代表任期の途中で新たに運営委員が選出された場合、その任期満了は 代表に準じるものとする。

第 8 条 本連合への入会は、所定の入会申込書(別添)に必要事項を記入して代表に提出する。代表は全会員に可否を諮り、過半数の会員の賛同が確認された場合に承認される。

第 9 条 本規約は定例会議で総会員の 2/3 以上の賛同をもって改正することができる。

第 10 条 議決は定例会議において書面委任を含む総会員の 2/3 以上の賛同があれば成立する。ただし、議決案件については会議開催の 2 週間前までに各会員に通知しなければならない。

第 11 条 意見の公表は、文書により行い、ホームページ、当事者・報道機関への送付、記者会見等により行う。

第 12 条 議決の要件が整わないが、代表が緊急に必要と認めるときは、運営委員全員の賛同もしくは会員の過半数の書面または電子的書面による賛成をもって、生物科学学会連合緊急声明をだすことができる。

第 13 条 会員は本連合の運営費として、年額 50,000 円を納める。2 年間滞納した会員は会議で議決の上、除名することができる。

付則

1)連合の会計年度は、毎年 1 月 1 日に始まり、12 月 31 日に終わる。

2)運営費は事務局で管理し、定例会議等の開催経費やホームページ維持管理費用等の恒常的な運営経費および本連合の目的達成のために使用する。

3)本連合には 2 名の会計監査委員をおく。会員の互選により選出し任期は 2 年とする。監査委員は年度始めの定例会議にて前年度の監査報告を行う。

4)本連合相互の連絡等に関する事務局は、中西印刷株式会社内におく。

5)本規約は 2015 年 3 月 7 日より発効する。

生物科学学会連合 入会申込書	
生物科学学会連合 代表 東原和成 殿	
生物科学学会連合への入会を希望いたします。	
	日付
	団体名
	代表者役職名・氏名
団体名(日本語表記)	
団体名(英語表記)	
法人格	任意団体 / 法人()
代表者の情報	
代表者役職名	会長／理事長／その他()
代表者氏名	
代表者所属機関	
代表者連絡先	(〒)
代表者電話番号	直通 / 内線()
代表者FAX番号	
代表者E-mail	
代表者任期	()年
代表者次期交代時期	()年()月
担当者の情報	※代表者が担当者となる場合、記載不要。個人情報の扱いは代表者情報と同様
担当者氏名	
担当者役職名	
担当者所属機関	
担当者連絡先	(〒)
担当者電話番号	直通 / 内線()
担当者FAX番号	
担当者E-mail	
担当者任期	()年
担当者次期交代時期	()年()月
公開可能な事務局情報	※外部からの問い合わせの際、公開します
事務局所在地	(〒)
事務局電話番号	
事務局FAX番号	
事務局E-mail	
学会ホームページURL	
学会基本情報	
学会の活動内容等	
会員数	()年()月()日現在 ()名
会員種別別会員数	※例：正会員〇名、学生会員〇名、団体会員〇件、賛助会員〇件 など
個人会員の男女別会員数	()名中、男性()名、女性()名 / データなし
ジャーナル	
タイトル(和文タイトル)	
タイトル(欧文タイトル)	
1年あたりの刊行号数	
1年における刊行月	
和文誌／欧文誌	1.和文誌 2.欧文誌 3.欧文論文も掲載する和文誌 4.刊行する号により和文・欧文の別がある(具体的に:)
刊行形態	1.紙媒体とオンライン版 2.紙媒体のみ 3.オンライン版のみ
刊行と公開の状況	1.紙媒体とオンライン版がほぼ同時 2.オンライン版が紙媒体より先に公開
オンライン版の公開方法	1.公開と同時に完全フリーアクセス可 2.会員のみ公開と同時にフリーアクセス可 3.会員のみ公開と同時にフリーアクセス可、一般は一定期間経過後にフリーアクセス可 4.会員のみ公開一定期間経過後にフリーアクセス可 5.その他()
PRINT ISSN	
ONLINE ISSN	
生科連HPからのリンク	1.学会HPの学会誌紹介ページへ直接リンク可 2.J-Stage等の該当ページへ直接リンク可 3.リンク不可
生科連HPからリンク可能な学会誌関連URL	
	※ジャーナルが2種類以上ある場合は続いて追加記載ください
日本学術会議の協力団体登録	
	している / していない
	※していない場合には別途お手続きをお願いすることになります https://www.sci.go.jp/ja/info/link/link_touroku_a.html 上記URLに既に団体名があれば、登録しています
生科連ホームページとの相互リンク	可 / 不可
※お送りいただきました入会申込書に記載の代表者・担当者個人情報については、生物科学学会連合が責任を持って管理し、連合の運営ならびに会議出席者への名簿配布、連合からのお知らせに必要な範囲内で利用させていただきます。また、会員(加盟団体)相互の利便性をはかり、連合の運営を円滑にする為、本連合会員団体の連絡担当者等に公開することがあります。本連合は協力会社に一部業務を委託しており、その業務に必要な個人情報を預託する事があります。個人情報の開示、訂正または削除を希望される場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。 【お問い合わせ先】 生物科学学会連合 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-16-5F 中西印刷株式会社 東京営業部 内 TEL: 03-3816-0738 FAX: 03-3816-0766 E-mail: seikaren@nacos.com	



2024年度決算書（2024年1月1日～2024年12月31日）

日本バイオイメーjing学会

会長 加藤 晃一 印

理事(財務担当) 太田 善浩 印

一般会計

収入	
2023年度より繰越	7,705,450
学術集会戻し金（第33回）	450,449
会費	1,069,000
利息	76
収入計	9,224,975

支出	
学会業務委託費	591,391
Bioimages誌出版費	134,000
バイオイメーjing誌印刷・送付	297,352
英文校正	40,154
HP作成維持費	71,500
男女共同参画	64,674
消耗品費	1,244
第32回学術集会準備金	300,000
奨励賞副賞	300,000
通信費	2,954
会議費	52,500
振込手数料	6,830
支出小計	1,862,599
2025年度への繰越	7,362,376
支出計	9,224,975

特別会計(国際学会準備金等)

収入	
2023年度より繰越	4,290,669
収入計	4,290,669

支出	
2025年度への繰越	4,290,669
支出計	4,290,669

2026年度予算案(2026年1月1日～2026年12月31日)

一般会計

収入

2025年度からの 繰り越し	7,100,000
会費	1,070,000

収入計	8,170,000
-----	-----------

支出

バイオイメージング印刷・送付	300,000
Bioimages 出版費	150,000
ホームページ管理費	71,500
英文校閲費	50,000
会議費	55,000
奨励賞・研究助成	100,000
男女共同参画（分担金 他）	95,000
学術集会準備金	300,000
雑費	10,000
学会業務委託費	600,000
予備費	6,438,500

支出計	8,170,000
-----	-----------

特別会計（国際学会準備金等）

収入

2024年度からの 繰り越し	4,290,669
----------------	-----------

収入計	4,290,669
-----	-----------

支出

第7回国際バイオイメージング学会	1,000,000
2027年度への繰越	3,290,669

支出計	4,290,669
-----	-----------

監査証明書

日本バイオイメージング学会
会長 加藤 晃一 殿

日本バイオイメージング学会 2024 年度収支決算報告書を監査した結果、正確
妥当なものと認めます。

2025 年 4 月 21 日

監事

岡 浩太郎



監査証明書

日本バイオイメーjing学会
会長 加藤 晃一 殿

日本バイオイメーjing学会 2024 年度収支決算報告書を監査した結果、正確
妥当なものと認めます。

2025 年 4 月 21 日

監事

木 原 裕



The 7th International Bioimaging Meeting

Dates 26-27th February 2026

Venue Bio21 Institute, 30 Flemington Road, Parkville, Merbourn, Australia

Organizers

Australia side

Paul McMILLAN

Professor, Manager, Biological Optical Microscopy Platform & President, Light Microscopy Australia

Stephen FIRTH He/Him

Professor, Manager, Monash Micro Imaging - Advanced Optical Microscopy

Lisa YEN, PhD GAICD

Chief Executive Officer | Microscopy Australia

Support Prof . Wojtek J Goscinski: Chief Executive Officer National Infrastructure Australia

Japan side

Kohei OTOMO

Senior Associate Professor, Faculty of Medicine, Juntendo University

Shinya KOMOTO

Team Leader, Light Microscope Facility, Okinawa Institute of Science and Technology

Kazuo SUZUKI

Visiting Professor, Chiba University Research Institute of Disaster Medicine

Support Yu KIHARA, Ryo SUZUKI, Kotato OKA, Takeharu NAGAI

(所属と身分) Tomomi NEMOTO, Masakazu AGETSUMA

1. Session candidates

Technological development on microscopy system,
imaging probe engineering, image analysis, biological application,
medical applications, imaging facility management

1) Program topic: microscopy and biological applications

Technological development on microscopy system
imaging probe engineering
image analysis
biological application
medical applications
imaging facility management
Study tour for the imaging facility

2) Special Lectures

Australia side 以下の2件の内、1件に決める

1. Live cell imaging: Prof Kelly Rogers - Application of Lattice Lightsheet Microscopy in visualising dynamic processes in life

<https://www.wehi.edu.au/researcher/kelly-rogers/>

5. Neural Circuits and Behaviour: Prof Ethan Scott - Imaging live

zebrafish brain in response to stimuli

<https://biomedicalsciences.unimelb.edu.au/sbs-research-groups/anatomy-and-physiology-re>

Japan side

Dr. Kaoru KATO

Observation of fine structures of the cell with polarized, phase-contrast and super resolution microscopes manually and robotically

ExCELLS Fellow The Exploratory Research Center on Life and Living Systems (Ex)
National Institutes of Natural Sciences, JAPAN

3) Topic Lectures

Australia side 以下の5件からSpecial Lecture を除く 4 題

1. Live cell imaging: Prof Kelly Rogers - Application of Lattice: Lightsheet Microscopy
2. Multi-photon Microscopy: Prof Scott Mueller - Visualising immune
3. Lymphatics & vasculature development: Prof Ben Hogan - Live cell
4. Molecular interactions: A/Prof Elizabeth Hinde - Investigating DNA
5. Neural Circuits and Behaviour: Prof Ethan Scott - Imaging live

Japan side 参加者の中から 4 題

- 1
- 2
- 3
- 4

2. Facility and/or lab. tour

The University is co-located with a wide range of other biomedical research institutes in the P

There are several microscopy facilities (6+) within walking distance.

Hopefully, this will suit nicely for your purposes, and we can take a trip out to Monash as well.

Perhaps we aim for 1.5 days in Parkville and then a trip to Monash for the afternoon?

Or a 1-day symposium followed by 1-day of facility tours?

Transportation for Labo tour

We could then put on a bus to get people out to MMI if there was an interest in touring the Monash Clayton facility.

Booking for Lecture and lab tour

I should be able to book a lecture there for the 26th & 27th February for the meeting. Let's provisionally make the location the Bio21 Institute, 30 Flemington Road, Parkville. Lecture theatre bookings aren't open yet for 2026.

3. 日本側の予算：日本バイオイメーjing学会からのサポート

学生会員を対象

【参考1】5月の評議委員会提案予算						
Income					Yen	
Support by Bioimaging Society (Japan)					1,000,000	
Registration	General		20	10,000	200,000	
	Student		20	5,000	100,000	
Total					1,300,000	

Outcome

Support for attendee			5	30,000	150,000	
Support for students			8	90,000	720,000	
total					870,000	
Infitation (Dr	Flight		1	300,000	300,000	
	Hotel		2	25,000	50,000	
	Others		1	5,000	5,000	
total					355,000	
Office works					75,000	
Total					1,300,000	

【参考2】 前回: 5th International Meeting in Singapore	
詳細な報告HP参照	
【バイオイメーjing】 2017年26巻1号（通巻80号）	

2025 年 9 月 26 日 評議員会資料

男女共同参画委員会より

2024 年 12 月までの担当委員：洲崎悦子、朽津和幸、田中直子、橋本香保子、樋口ゆり子、加藤有介
2025 年 1 月からの担当委員：田中直子、朽津和幸、樋口ゆり子、鈴木亮、行方衣由紀、秋田佳恵

I 2024 年度活動報告

(1) 運営委員会 年 3 回(Zoom によるオンライン会議)

第 22 期第 3 回委員会(2024 年 8 月 30 日)：洲崎出席

第 23 期第 1 回委員会(2024 年 12 月 10 日)：洲崎出席

第 23 期第 2 回委員会(2025 年 3 月 13 日)：田中出席

(2) 第 22 回シンポジウム(連絡会の年総会)

日時：2024 年 10 月 12 日(土) 10:00～16:30

中央大学茗荷谷キャンパス オンラインとのハイブリッド開催

参加者：洲崎、樋口（オンライン参加）

＊活動報告をシンポジウム資料集に掲載

(3) 内閣府「理工チャレンジ(リコチャレ)」に継続して「応援」団体として参加

理工系女子応援ネットワークに参加

(4) 女子中高生夏の学校

日時：2024 年 8 月 10 日(土)～12 日(月)

国立女性教育会館(NWEC)

8 月 11 日午後の「ポスターおよび進路・キャリア相談のセッション」に参加

参加者：教員 2 名（田中、行方）

学生 4 名（北村佳のん／東京理科大、関舞花／東邦大、西川真由、蜂谷里桜／大妻女子大

2024 年度支出

項目	費用
連絡会への分担金	10,000
連絡会シンポジウムへの参加費	7,000
女子中高生夏の学校	
ポスタ・配布資料作成費	13,780
交通費（6名分）	18,894
謝金（5名分）	15,000
計	64,674

Ⅱ 2025 年度活動予定

- 例年通りの活動を継続中
 - (1) 運営委員会(Zoom によるオンライン会議) 年数回
第 23 期第 3 回委員会(2024 年 8 月 29 日) : 秋田出席
 - (2) 第 23 回シンポジウム(連絡会の年総会)
日時: 2025 年 10 月 11 日(土)
日本大学生物資源科学部 オンラインとのハイブリッド開催
* 予定が合う範囲で参加
* 活動報告をシンポジウム資料集に掲載予定
 - (3) 内閣府「理工チャレンジ(リコチャレ)」に継続して「応援」団体として参加
* 理工系女子応援ネットワークに参加予定
 - (4) 女子中高生夏の学校
2025 年 8 月 9 日(土)~11 日(月)
国立オリンピック記念青少年総合センター (2025 年度より NVEC が宿泊事業から撤退したため)
8 月 10 日午後のポスターおよび進路・キャリア相談のセッションに参加
参加者(教員): 秋田、鈴木、田中、行方(五十音順)、
参加者(学生): 関(東邦大学)、西川、蜂谷(大妻女子大学)
 - (5) 学会ホームページの活用
活動内容を掲載予定

2025 年度予算 (2024 年 9 月の評議員会で承認済み)

項目	費用
連絡会への分担金	10,000
連絡会シンポジウムへの参加費	8,000
連絡会シンポジウム資料集への掲載料	2,000
理工系女子応援ネットワーク会議 参加交通費	10,000
女子中高生夏の学校	
ポスタ・配布資料作成費他	25,000
交通費・謝金	40,000
計	95,000

Ⅲ 2026 年度活動予定

●例年通りの活動を継続中

- (1) 運営委員会(Zoom によるオンライン会議) 年数回
- (2) 第 23 回シンポジウム(連絡会の年総会)
 - * 予定が合う範囲で参加
 - * 活動報告をシンポジウム資料集に掲載予定
- (3) 内閣府「理工チャレンジ(リコチャレ)」に継続して「応援」団体として参加
 - * 理工系女子応援ネットワークに参加予定
- (4) 女子中高生夏の学校
- (5) 学会ホームページの活用
 - 活動内容を掲載予定

2026 年度予算申請

項目	費用
連絡会への分担金	10,000
連絡会シンポジウムへの参加費	8,000
連絡会シンポジウム資料集への掲載料	2,000
理工系女子応援ネットワーク会議 参加交通費	10,000
女子中高生夏の学校	
ポスタ・配布資料作成費他	25,000
交通費・謝金	40,000
計	95,000